

D**谷田川敏幸が
ニューマシン初勝利!**

第1ヒートは、昨年全日本ダートラに復帰した宮入友秀が、全クラスのなかで唯一1分39秒台のベストタイムをマークしたDクラス。ドライ路面となった第2ヒートも好調をキープし、地元の浜田隆行のベストタイムを3秒縮める1分36秒023のタイムをたたき出す。その後のシードゼッケン組は、路面は乾いたものの荒れた路面に手を焼き、瀬川博、炭山義昭が36秒台に突入するものの、宮入のタイムには届かず。このまま宮入が逃げ切るかに思えたが、トリを務める谷田川敏幸が宮入のタイムを一気に2.2秒縮めるベストタイムで逆転。ゴール後に開口一番「気合いだよ、気合い!」と雄叫びを上げた谷田川が、渾身の走りで待望のニューマシン初優勝を、自らの手で引き寄せた。



2位 宮入友秀
●ItzzDLグローバルランサー ●1分36秒023



3位 炭山義昭
●ZEALby TSSDLランサー
●1分36秒162



4位 江川博
●DL・ALTEC・江積COLT
●1分36秒752



優勝 谷田川敏幸
●ADVANTクラストインプレッサ
●1分33秒777

Topics**軟質路面と目まぐるしく変わる
天候に混迷を極めたタイヤ戦略**

全日本開催コースとしては珍しい軟質路面と、全日本初開催だけに路面変化のデータがほとんどない「窓の浦」は、タイヤ選択も混迷した。特に雨がやんだ第2ヒートは、PN2クラスがドライタイヤが優勝、N1クラスではウェットタイヤが優勝という展開に。さらにN2クラスはドライの赤羽が優勝、ウェットの黒木が2位、逆にSA1クラスはウェットの山崎が優勝、ドライの岡田が2位と、タイヤ選択の判断が難しい1戦ともなった。

**Topics****玄界灘を望む
オーシャンビュー**

スピードパーク窓の浦の山岳コースは、頂上付近から玄界灘を眺望できる見晴らしの良いコーナーだ。ドライバーはこの景色を見ながら走行することは難しいが、海外ラリーを彷彿とさせるロケーションは、ぜひギャラリーコーナーとして採用してほしい。急勾配の傾斜の頂上にあるため、眺めがいい地点までのアクセスが難しいが、「窓の浦」を象徴するエリアとなることは間違いない。ギャラリー増加、ひいてはダートラ人気と人口増加を招く意味でもぜひ実現してほしい。

